

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	2	0	20	1	18	26	2	0	2	総調査ほ場数: 46か所 総調査株数: 1,150株 (調査株数 25株)
	本年平均値	4.3	0.0	43.5	2.2	39.1	56.5	4.3	0.0	4.3	
	平年値	1.4	0.9	45.7	0.9	31.8	56.9	51.0	0.2	5.6	
	(本年平均値/平年値) × 100	307.1	0.0	95.2	244.4	123.0	99.3	8.4	0.0	76.8	
株率 (%)	発生株数	0	0	53	0	98	238	4	0	4	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病、萎黄病が一部のほ場で散見されています。 ・うどんこ病の発生は平年並みですが、一部のほ場で発生が多い状況です。 ・本ぼに続き、アブラムシ類、ハダニ類の発生が見られます。
	本年平均値	0.0	0.0	4.6	0.0	8.5	20.7	0.3	0.0	0.3	
	平年値	0.0	0.0	9.1	0.0	6.2	18.6	11.4	0.0	0.4	
	(本年平均値/平年値) × 100	-	-	50.5	-	137.1	111.3	2.6	-	75.0	
発生程度	多	少	平年並	多	平年並	平年並	少	少	平年並		
概 評		平年並	少	平年並	やや少	平年並	平年並	少	少	平年並	

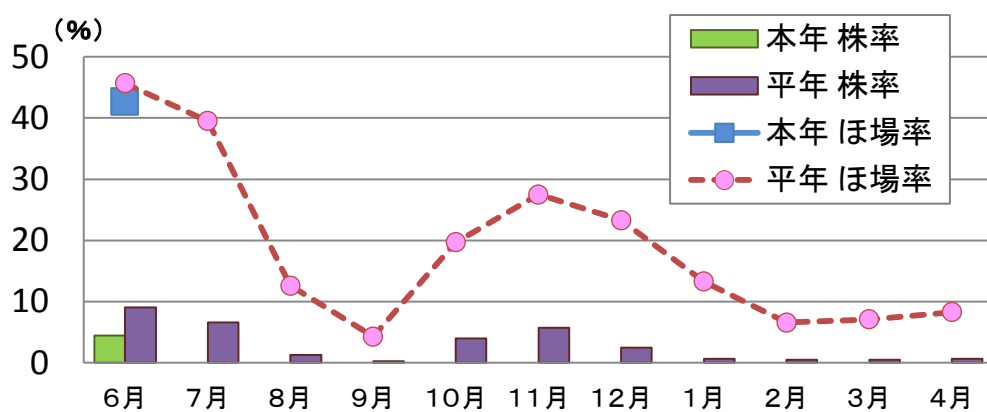


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

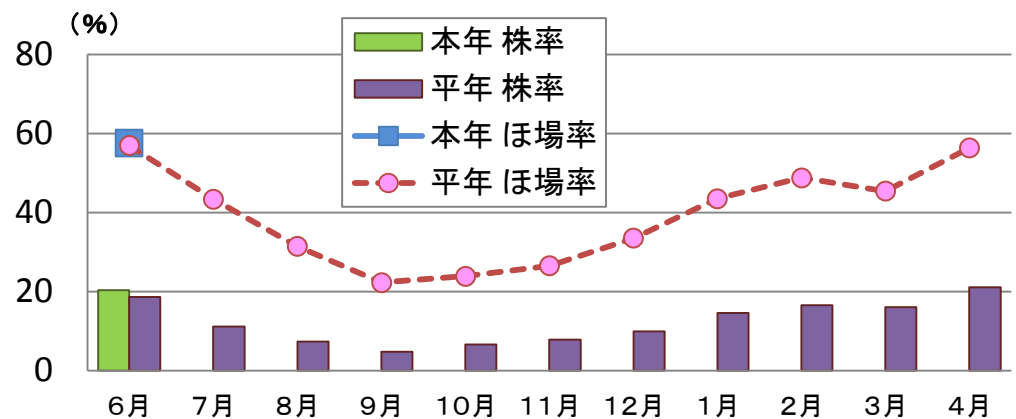


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

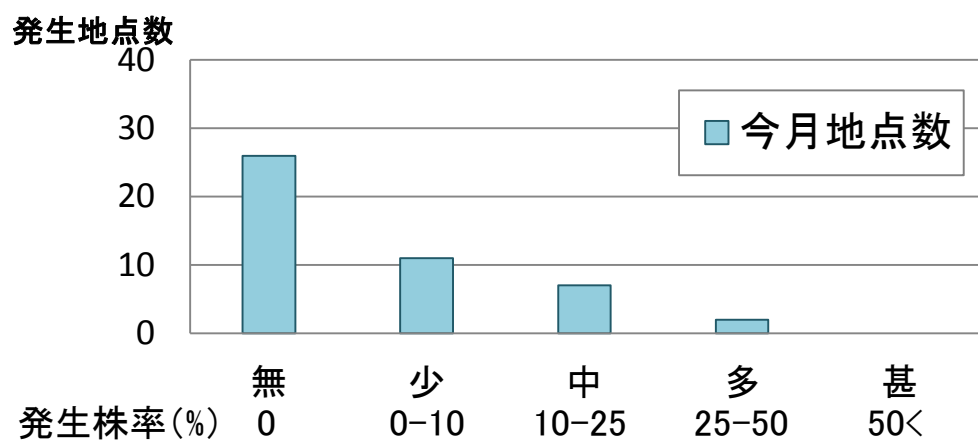


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

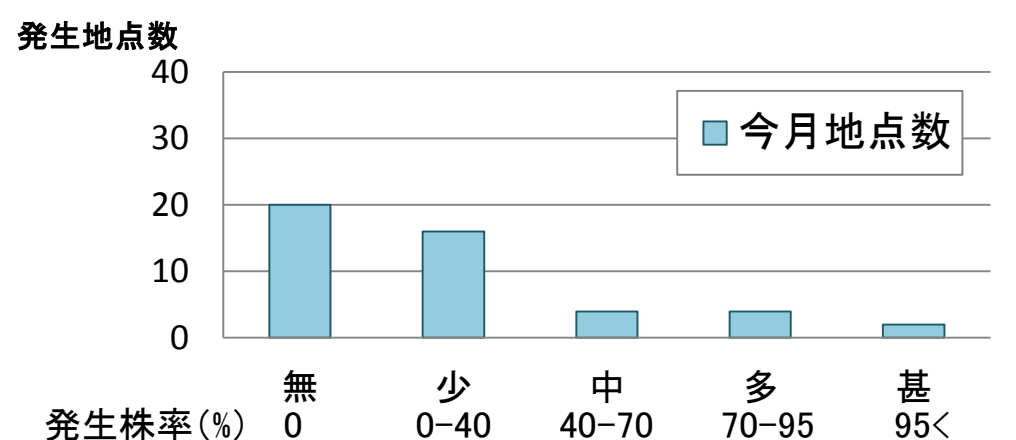


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・生育に応じて葉かきを実施し、株の風通しを良くする。
- ・軟弱徒長すると発生が多くなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・本ぼへの菌の持ち込みを防ぐため、予防を主体にベルコートフロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。

○ハダニ対策

- ・雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- ・気門封鎖剤やチリカブリダニ製剤「野菜類(施設栽培)」を活用し、有効薬剤を温存する。
- * 当センターHPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真1 うどんこ病

○今月の技術情報(技術指導班)○ (6月)

- ・高温傾向が続いた後、梅雨入りと同時に記録的な降水量となり、病害の発生しやすい環境になっています。この時期は、病害虫の被害を最小限に抑えることが不可欠です。
- ・現在、親株からのランナー発生は、概ね順調に推移していますが、高温により一部で先枯れ症状が見られます。
- ・露地育苗では、こまめなかん水や子苗の誘引、空中育苗では養液濃度、適切なかん水量の確認、排水の確認など基本的な管理が今後の良質苗の確保に大きな影響を与えます。
- ・現在のところ炭疽病の発生はほとんどありませんが、高温下で発生が多くなりますので、ほ場観察と発生予察情報を参考に防除意識を高めましょう。特に、今年は早い時期から高温傾向にあり、根が傷みやすい環境にあります。根の周りの水が滞留した状態では病原菌が繁殖しやすくなりますので、栽培環境の確認を徹底しましょう。
- ・また、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病の発生が見られます。ハダニ類やアブラムシ類は、本ぼからの飛び込み、持ち込みが要因の一つと考えられます。親株床のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除もしっかり行いましょう。
- ・今後、曇雨天が多くなり、うどんこ病が発生しやすい環境になることも予想されます。早めに予防剤を散布するなど、早期発見、早期防除の徹底を図りましょう。